

リレー連載

Road to Paralympic

第2回 航空機を利用して旅を楽しむために

宮野 秀樹

「Road to Paralympic」坂上さんからのバトンを受けて、私宮野が第2執筆者としてアクセスに関して考えていることを述べていきます。あくまでも私の視点からの意見や問題提起ですので、いろいろ言いたいことは堪えてもらい、寛容な気持ちを持ってお読みいただければ幸いです。

私が話題提供するのは、「旅を楽しむ」をキーワードに「航空機を利用する」ことです。そして「航空機を利用する」に関する話題はあまりにも範囲が広いため、今回は「空港の駐車場」と「ビジネスクラス利用」というピンポイントに絞って私なりに語りたと思います。

みなさんは航空機を利用したことがありますか？そもそも航空機を利用するという事は、航空機を利用しないと行けない場所へ行くという目的があるはずで、それは、人によっては旅行であったり、人によっては仕事であったり、故郷への帰省と目的は様々です。陸続きの遠方であれば、新幹線利用も障害者の移動方法として選択肢のひとつとして挙げられ、同じ移動でもどちらかといえば航空機より利用率が高いのではないかと考えられます。現に、昨今の鉄道事情はバリアフリー化が進み、「快適さ」の充実はまだ課題はあれども、大きく利用を阻まれることはない。その点、障害者の航空機利用には課題も多く、公共交通機関の中でもバリアフリー化に向けた最後の難関ではないでしょうか（船があるだろう！という声もあるでしょうが…）。

いろんなことを含めても航空機利用はちょっと特別感があり、利用するためには「勇気」が必要な場合もあります。それは、遠方であればあるほど利用料は高額になり、我々障害者は格安チケットで購入できる機種や座席シートが利用条件によって使えない場合もあるので、高い利用料金を支払う覚悟が必要だということです。そういう覚悟をするからこそ、快適性を求めるわけですが、これがなかなか受け入れてもらえない現状があるのです。

航空機を利用するとき、空港まで行かなければいけません、自宅から空港までのアクセスも航空機利用の一環として考える必要があり、快適を求めたいところです。本来、自宅から空港までのアクセスといえばバスや鉄道利用が一般的ですが、私の場合は、自宅から空港までは福祉車両（自家用車）を利用します。よく利用する空港は、伊丹空港（大阪国際空港）と関西国際空港で、伊丹空港までは有料自動車道を利用して約50分、関西国際空港は有料自動車道を利用しても2時間半はかかります。渋滞は仕方ないとしても、一番ストレスを感じるのは空港に着いて駐車場に止めるときです。両空港とも駐車場は完備されており、障害者等専用駐車スペースも確保されていますが、毎回満車でここ近年は利用できていません。確かに見方を変えれば「障害者を含む配慮が必要な方」の利用が増えたという喜ばしいことでもあるのですが、常に満車のため離れた場所に止めざるを得ないことに対する煩わしさが大きいのです。“早い者勝ち”であり続けるならば、重度障害者である私とその競争に挑むには条件的に厳しいのが容易に推測できます。出発フロア前で降ろしてもらえばいいのでは？とも思われるでしょうが、出発・到着フロアの手椅子乗降スペースも常に他車が停車しており、自車を停車させるのにかなりの時間を要します。結局、駐車場に止めてそこから移動するのが一番時間のロスが少ないと思われま。

旅とは「移動の連続」であって、それらがスムーズに行えてこそ「快適」＝「楽しい」となるため、連続が阻害されると不快になります。これに「駐車料金を払っている」もつとて言えば「高額な旅行代金を支払っている」という心理が働くと、「もうちょっとなんとかならないものか」と愚痴のひとつでもこぼしてしまうワケです。「予約制の駐車場でもあればなあ」とこの原稿を書きながらWEBサイトを調

べていると、関西国際空港にはなんと駐車場の予約システムがあり、「登録車以外は使用できない」「駐車料金とは別に 510 円（税込）の予約料金がかかる」という条件はあるけれどあるにはあるんですね。失礼しました。とはいえ、伊丹空港にはこのシステムはなく、そして、あるとはいってもやはり予約なしで使える障害者等専用駐車スペースに止めたいというのが、私だけではなく誰もが思うことではないでしょうか。駐車スペースをもっと増やす、一般駐車場を優先駐車場に変える、工夫次第で配慮はできるはずですが。個人的な思いが強い要望ですが、改善してほしいです。

話は変わって、人生で初めてビジネスクラスを利用しました。某月ハワイへプライベートで旅行した際に、関西国際空港ーダニエル・K・イノウエ国際空港（旧称ホノルル国際空港）間の航空機を利用したのですが、そこで貴重な体験をしたのでそれを書いておきたいと思います。

利用したのは日本航空（JAL）のビジネスクラス。初めてとあって勝手がわからない不安はあれど、やはりテンションは上がります。「どんな良いサービスを受けられるのだろう」と旅行の日が近づくにつれワクワクが止まりませんでした。ところが機内に移動して自分のリサーチ不足に気づかされました。「JAL SKY SUITE III」という最新のシートを選択。新型のフルフラットベッド、17 インチの大型個人モニター、何よりもプライバシー性に配慮した空間が確保されているのが魅力だと思ったのですが…、確かにプライバシー性が高いけれど高すぎや！言葉での説明が難しいので写真を見てください。



わかるでしょうか？この高い囲みが！確かにプライバシー性は高いんです。でも、それ故に囲まれすぎていて座席に移乗するのが困難で、座ってしまうと介助者を呼ぶのが大変なのです。真ん中の写真を見てもらうとよくわかると思いますが、座席に移るために入れるスペースはこの広さしかありません。障害のない人は無理なく入れますが、移乗に複数名の手伝いが必要な私には、手伝ってくれる人が入ることができない空間での移乗介助は困難を極めました。持参した介護担架を活用し、JAL の男性職員も数名手伝ってくれたのですが、どうにもこうにも入れようがなく、みなさん変な体勢になって四苦八苦した末にようやく座席に移ることができたワケです。こんなに移乗するのが大変なシートであったとは確認不足でした。まあ、事前確認していたとしても移乗の困難さは避けられなかったと思いますが…。

乗り込んでしまえばシートはフルフラットになるので、長時間座位姿勢を取ることが苦痛な体には最高の快適さでした。もちろんビジネスクラスですのでサービスも丁寧で手厚く申し分なかったです。ただ、駐車場の問題提起で前述の通り、スムーズな移動の連続と高額料金を支払っている心理の観点でいうと、やはりこれだけの苦勞をするのはいただけないと感じてしまいます。くどいようですが、障害のない者には非常に快適な空間だと思います。それでも障害があることで快適さが損なわれてしまうのはちょっと残念です。航空機を利用する際には、いろいろ調べてから利用することをオススメします。